



写真：機械工学科4年 山本 愛生「生命線」

1. 巻頭言「学びの宝庫」学校図書館の役割	読間キャンパス図書館長 内田 由理子	2
2. 本にまつわるエッセイ《高松》		3
3. 文芸コンクール入賞結果《読間》		7
4. 講評		8
5. 入賞作品紹介		
エッセイ	【最優秀賞】 1年3組 安宅 優馬	8
小説	【最優秀賞】 1年2組 眞鍋 太一	9
俳句	【グランプリ】 通信ネットワーク工学科3年 岩本 羽未	11
短歌	【最優秀賞】 1年1組 古藤 蓮	
	【優秀賞】 1年3組 北山 杏莉	
俳句	【優秀賞】 1年3組 瀬戸 美月	
写真	【最優秀賞】 電子システム工学科2年 渚 勇斗	
	【優秀賞】 通信ネットワーク工学科2年 池田 そら	
6. 教員・学生による推薦図書 全19編（教員7編、学生12編）		12
7. 教員によるエッセイ	読間キャンパス一般教育科 高木 蓮	15
8. 図書委員長より	建設環境工学科4年 秋澤 弘大	16
9. 読書・図書館利用のすすめ	通信ネットワーク工学科5年 白木 彩嘉	16
10. 専攻科生より		17
11. ブックハンティング紹介		18
12. ビブリオバトル紹介		18
13. 図書館からのお知らせ		18

「学びの宝庫」 学校図書館の役割

詫間キャンパス

図書館長 内田 由理子

学校図書室・図書館（以下、学校図書館）は、主に教科書や参考書が置かれた静かな場所でした。司書教諭も少なく、生徒や学生は自習や調べ学習に利用することが主でした。蔵書は選定が厳しく、娯楽的な要素はほとんどありません。学校図書館は、「本の倉庫」のような存在であり、利用者の主体的な読書活動はあまり奨励されていませんでした。

しかし、時代とともにその役割は大きく変化し、現在では学習・情報センターとして、生徒・学生たちの学びを深める上で欠かせない存在となっています。教科書だけでは得られない知識や、想像力を刺激する物語など、多様な価値観が詰まっています。学校図書館は、次第に以下の機能が供えられるようになりました。

・情報化社会の到来による情報基盤の充実

図書だけでなく、学校によってはコンピュータ、タブレット端末、電子書籍などが整備され、多様な情報にアクセスできる環境が整いました。

・多様な資料の収集

雑誌、DVD など、学生たちの興味関心に合わせた幅広い資料が揃っています。

・学習指導要領の改訂

アクティブラーニングや情報活用能力の育成が重視されるようになったため、グループ学習スペースやプレゼンテーション設備が設置され、生徒・学生同士が協力して課題に取り組むことができるようになりました。

・多様化するニーズ

個々の興味関心や学習スタイルが多様化しています。読書だけでなく、読書会、イベント、展示など、様々な活動が行われるコミュニティスペースとしても、整備されてきました。

学校図書館は単なる本の貸出場所、「本の倉庫」ではなく、「学び」を深め、「思考力」を育むための場所として大きな存在感を示しています。一方で、現在、スマートフォンやゲームなど、様々なデジタルデバイスに触れる機会が増えています。文化庁調査（2023年度）によると、「月に1冊も本を読まない」が回答者の6割を超え、人々が読書から遠ざかっている傾向がみられます。そのため関連業界では、本来、本とは無縁の異業種（ホテル・旅館業、病院、公園など）と掛け合わせる構想をもって、タッチポイントの拡大を試みています。学校図書館でも、活性化に向けた取り組みが行われてきました。

・蔵書の充実

多様なジャンルの蔵書を揃えます。文学書だけでなく、歴史、科学、芸術など、幅広いジャンルの本を揃え、新刊本の導入やデジタルコンテンツの充実を図り、利用者の興

味関心を広げます。

・デジタルとアナログの融合

図書だけでなく、デジタルコンテンツも活用し、より魅力的な学習環境を提供することが重要です。

・授業との連携

授業と関連した図書を紹介したり、調べ学習を取り入れることで、図書館を学習の場として活用します。

・図書館情報の発信

学校ホームページやSNSの活用、ポスター・チラシの作成など、図書室・図書館の情報を発信します。

・地域との連携

地域の図書館や博物館・資料館などとの連携を深め、より多くの資源を活用できるような仕組みを構築します。著者講演会、ブックトークなど、読書イベントや地域住民向けの講座を開催し、地域との交流・連携を深めます。

・環境の充実

コミュニティスペースの活用が欠かせません。学びあいの場所、交流できる場所として、利便性の高い環境を整備します。快適な読書空間を創出するために、照明や座席の配置、配色、インテリアなど、利用者が心地よく読書できる空間デザインが必要です。

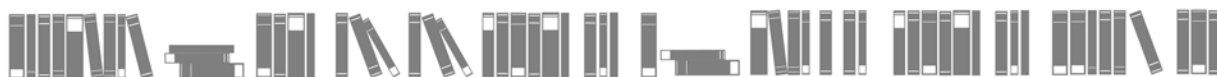
上記の視点を取り入れながら、香川高専図書館では、「新刊コーナー」、「人気本紹介コーナー」、「テーマコーナー」の設置、新入生向け図書館オリエンテーション、英語の多読をはじめとした各授業における活用、ブックハンティング、図書館文芸コンクールなどを実施しています。これらを通して、図書館が身近な存在となる意識づけや読書意欲を高める効果を図っています。

最後に、今後の学校図書館の展望を考えてみましょう。AIを活用した学習支援システムや個々のニーズに応じた書籍の推薦、VRを使った仮想体験など、新しいテクノロジーを導入することで、より効果的な学習環境を提供することが期待されます。生徒・学生各々の興味やレベルに合わせて、個別最適な学習内容や資料を提供するパーソナライズド・ラーニングも注目されます。さらに、地域社会に開かれた人々の学びを深める場所、地域住民の生涯学習の拠点という役割も希求されます。

以上、学校図書館の変遷を振り返り、改めてその重要性を再確認してきました。そして、図書館をもっと活気あふれる場所にしたいと考えています。ぜひ、みなさんも図書館に足を運んで、読書を楽しんでください。ネットとは異なる新たな発見や運命の出会いがあることでしょ



詫間キャンパス図書館入口の新着図書コーナー



本にまつわるエッセイ

〈高松キャンパス〉

教職員

貧困と言葉、貧困な言葉

一般教育科 野口 尚志

J.D. ヴァンスの『ヒルビリー・エレジー』（関根光宏・山田文訳、2017.3、光文社）を読むと、その内容と、現在の著者の発言との違いに多少の困惑を覚えるだろう。本書はアメリカの五大湖とアパラチア山脈の間の、いわゆる「ラストベルト（さびついた工業地帯）」で育った著者が貧しく荒廃した子供時代を送りながらも奇跡的に大学に進学し、さらにはイェール大学のロースクールを出て弁護士資格を得るまでの回想記である。

アメリカには「ホワイト・-trash」と呼ばれる白人の貧困層が存在するが、「ヒルビリー（田舎者）」もそうした貧しい白人たちを呼ぶ言葉である。ヒルビリーにはたとえ能力があっても、貧困がもたらす環境ゆえに教育を受けて自ら将来を切り開くような道が閉ざされている。同じ環境で育った著者が大学に進学し、名門ロースクールを出て弁護士になったのは、出身地の人々には「偉業」に見えているらしい。

著者を導いたのは主に祖母と祖父である。彼らも貧しかったが、孫に教育が必要であることは理解していた。そうした助けを得ながら、薬物に依存する母と信頼する姉との関係を中心に、過酷ともいえる貧困からの脱却が明瞭で穏やかな筆致で語られていく。

そんなこの本の著者ヴァンスが、共和党のトランプ前大統領によって副大統領候補に指名されたのである。彼は本書の出版後にオハイオ州選出の上院議員になっていた。かつては完全なトランプの批判者だった彼は、今では強固なトランプ支持者と化した。

本書の中で彼はある研究を引用して次のように述べている。

ヒルビリーは人生の早い段階から、自分たちに都合の悪い事実を避けることによって、あるいは自分たちに都合のいい事実が存在するかのように振る舞うことによって、不都合な真実に対処する方法を学ぶという。こうした傾向は、逆境に対処する力を生むが、同時に、アパラチアの人たちが自分自身の真の姿を直視するのを困難にしている。

著者はしばしばヒルビリーたちの努力の足りなさに言及する。著者は大学進学の際、あまりに貧しい家庭の生まれであったために、学費をほとんど免除された。階層の移動を可能にするための「貧しい人に教育を」というリベラルな制度の恩恵を直に受けたのである。だが、多くのヒルビリーはその恩恵にあずかる前に諦めて、彼ら

の将来や子孫に利益となる制度の存在を身近に感じる機会がない。貧困は世代を超えて連鎖していく。

その結果、今や彼らはアメリカの中で自分たちこそが最も見捨てられた存在だと感じている。黒人の権利を擁護する政治家や活動家はたくさんいるが、自分たちの思いを代弁してくれるのはトランプだけだと思いはじめ。ヴァンスはそうした「真の姿を直視」しない人々に乗ったように見える。現在のヴァンスの発言の数々をニュースで読んでほしい。本書を読む限り、彼が心底から女性を差別し、陰謀論を信じ、移民排斥を願っているとは思えないのだが、自分が実践した貧困脱却の道を説くのではなく、今このときだけのプライドを他者の排除によって守ろうと考える白人貧困層の支持を得る方向に舵を切った。

大統領選挙のリアルで空虚な側面まで見えるようにしてくれる一冊である。

学 生

高松キャンパス図書館が主催して募集した「本にまつわるエッセイ」優秀賞の表彰式を11月28日（木）に実施しました。

表彰式では、優秀賞を受賞した学生に、荒木校長から賞状が授与されました。

優秀賞 創造工学専攻2年 苺坂 浩貴さん
物語のはじまり「しろいうさぎとくろいうさぎ」



応募作品紹介

※掲載は、学年順の50音順

読書で得られるスキル

創造工学専攻2年 綾野 翔馬

日本語を使いこなすためには、多くの語彙や漢字の習得、文法など、様々な要素が必要である。日本語において「話し言葉」と「書き言葉」を使い分けることは一般

的であるが、私自身はその使い分けを間違えることが多い。ひとつの言語に二種類の表現が存在するのは日本語特有かと思い調べてみたところ、他の言語でも「話し言葉」と「書き言葉」が区別されていることが多いようである。これは、言語の伝達手段が音声と文字に分かれており、それぞれが話し言葉と書き言葉に対応しているためである。したがって、話し言葉と書き言葉の違いは、言語にとって重要な要素であると考えられる。

では、話し言葉と書き言葉には他にどのような違いがあるのだろうか。話し言葉には即興性が求められることがあり、日常会話での応答やプレゼンテーションでの質問対応は事前に予測が難しいため、即興性が重要である。また、表情や声のトーンを活かした表現が可能であり、一つの言葉に多くの意味を込めることができる。

一方、書き言葉では文章構造の整理が不可欠である。小説では文構造を意図的に操作して読者に違和感を与える技法が存在するが、参考書などでは章の順序が極めて重要であり、誤った順序では内容の理解が難しくなる場合がある。また、フォントやレイアウトを工夫して視覚的に意味を込めることもできるが、話し言葉と比較するとその意味が少なくなる傾向がある。このように、話し言葉と書き言葉では、書き言葉の方が伝えられる情報が少ないことから、書き言葉をより厳密に記述する必要がある。したがって、上達のためにはより多くの時間が必要である。

私は書き言葉に対するスキルを鍛えるには、本を読むことが有効であると考えている。私はあまり本を読まないが、読書の重要性は感じることもある。特に工学系の学問を学んでいることから、既存論文の調査は重要な研究活動の一環であり、文献の読み方や情報の整理は書き言葉のスキルに応用可能であると考えている。また、読書は語彙の習得にも利用できると考えている。書き言葉は基本的に文字のみで表現する必要があることから、細かなニュアンスを含む語彙を利用することが必要である。したがって、よく知られている文学作品を読むだけでも、高いレベルの語彙を習得できると考えている。

さらに、読書を通じて自分の表現力や即興的な応答など、話し言葉に応用できるスキルも向上させることができると考えている。少しずつでも本を手取る機会を増やし、適切に人とのコミュニケーションをとることで、書き言葉と話し言葉の両方のスキルをバランスよく鍛えることができると考えている。私自身は文章を書く機会が多いが、あまり得意ではないので、得意になれるように努めたい。

優秀賞

物語のはじまり

「しろいうさぎとくろいうさぎ」

創造工学専攻2年 苧坂 浩貴

私が最初に読んだ本は、ガース・ウィリアムズ作の「しろいうさぎとくろいうさぎ」だ。幼い私にとって、純粋で愛情深い白いうさぎと、少し寂しさや孤独を感じる黒いうさぎの物語は、心を鷲掴みにするような魅力があった。美しいイラストとシンプルながらも深いストーリーに惹かれ、何度も何度も読み返した記憶が今でも鮮明に残っている。物語は、二匹のうさぎが互いを思い合い、共に生きていく決意をするという優しいテーマを扱っている。幼い私は、その物語の世界に夢中になり、ただ読むだけでなく、物語をさらに続けたいと思った。ある日、私は自分で「しろいうさぎとくろいうさぎ」の続編を描き始めたのだ。もちろん、私が描いた続編は今思えば稚拙なもので、プロットもイラストも完全に未熟だった。それでも、その時の私は純粋に物語を紡ぎ出す楽しさを感じていた。

この行動は、私が絵や物語に対して強い興味を持ち始めた瞬間だったのかもしれない。子どもながらに、物語の続きが自分の手で作れるという喜びを知り、空想の世界で新たな物語を展開する楽しさに目覚めた瞬間だった。言葉を選び、キャラクターを動かす、イラストを描くことで、物語を進める感覚は、私にとってとても刺激的だった。その体験は、今でも私の創作活動や読書に対する情熱の原点として心に残っている。それ以来、私は本を読むことが好きになった。本は単なる娯楽や知識の提供にとどまらず、私の想像力を広げ、考えや感情を深め、より豊かに表現するための糧となった。さまざまな物語に触れ、それぞれの世界観やキャラクターに感情移入しながら、私は次第に物語の構造やテーマについても意識するようになった。本を読むことは、私にとって単なる楽しみではなく、自己表現や新しい視点を見つける手段へと変わっていったのだ。

最近になって、ふと「しろいうさぎとくろいうさぎ」をまた読みたいと思うことが増えた。あの頃の純粋な喜びや感動を思い出し、自分がどのようにして物語の世界に没頭していたのかを改めて感じたいのかもしれない。また、その物語に触れることで、私自身がどう成長し、どんな価値観を持つようになったのかを振り返ることもできるのではないと思う。物語は私たちに影響を与える。幼い頃に読んだ本は、今でも私たちの心に残っていて、時には新たな視点や感情を引き出してくれる存在だ。だからこそ、改めて自分が最初に触れた本に手を伸ばしてみる価値があると思う。子どもの頃には気づかなかった新たな発見が、そこには待っているかもしれない。あなたも、自分が最初に読んだ本をもう一度手に取って、その物語と再会してみたいはいかがだろうか。もしかする

と、あなたの中にもその本がもたらした大切な記憶や感情が眠っているかもしれない。そして、その物語が、あなたの人生のどこかで新たな影響を与えてくれることもあるだろう。

小説『マッチング』を読んで

創造工学専攻2年 山下 隆之介

『マッチング』は、現代の出会い方に潜むリスクや不安を描いた物語です。恋愛に奥手なウェディングプランナーの輪花は、親友の勧めでマッチングアプリを始め、不気味な男性、吐夢と出会います。この出会いをきっかけに、彼女の周囲で不可解な出来事が次々と起こり、さらに、アプリ婚をしたカップルが狙われる連続殺人事件とも結びつき、物語は徐々に緊張感を高めていきます。

本作品の特徴は、マッチングアプリの利便性の裏に潜む不安やリスクを、読者に強く共感させる点にあります。現代社会における出会いの不確実性や、その背景に潜む危険がリアルに描かれ、現実の恐怖を強く感じさせる内容です。

特に印象的だったのは、物語を通じて浮き彫りになるマッチングアプリに関連する問題です。吐夢の不気味な存在や、プライバシーの脆弱性が明らかにされ、現代社会における深刻な問題がテーマとなっています。アプリを介して見知らぬ人と繋がることの危うさを実感させられ、読者として背筋が凍るような思いをしました。また、吐夢とのやりとりが進むにつれて、彼の正体が次第に曖昧になり、人間関係の不透明さや信頼の難しさについても考えさせられました。物語の中で輪花の心情の変化が際立っていると感じました。

彼女は幼少期に母が突然いなくなったというトラウマを抱えており、そのため恋愛に対して不安を感じていました。それでも、少しでも幸せを手にしたという希望からマッチングアプリを始めました。吐夢とのやりとりの当初は、彼に対して微かな違和感しか覚えていなかったものの、次第に不安が募り、彼への恐怖心が大きくなっていきます。最終的に彼女は、単に恐怖に圧倒されるのではなく、その恐怖に立ち向かう強さを見せ、心の成長を実感できます。この過程が読者にとって感情移入しやすい点となっています。

この作品では、単に恐怖を描くだけでなく、登場人物たちの心の動きや感情が巧妙に隠されています。私は終盤に至るまでその感情の流れに気づかず、結末に近づいてようやく登場人物同士の複雑な関係性や心の動きが理解できました。これにより、単なるホラー作品ではなく、人間関係や心理的なテーマが浮き彫りにされ、現代社会の不確実性について考える機会を与えられました。特に「安心感が一転して不安や恐怖に変わる」瞬間は、物語の大きな魅力であり、私に強い印象を残しました。

『マッチング』を読んで、私は現代のデジタル社会に潜む危険や、他者との関わり方について多くのことを学び

ました。以前は友人からマッチングアプリで恋人を見つけた話を聞いて、好意的な印象を持っていましたが、この物語を通して、見知らぬ人と簡単にやり取りできることが予期せぬトラブルにつながる可能性を改めて認識できました。今後、デジタルツールを利用する際には、より慎重に考え、相手とのやり取りには一層気をつけたいと思いました。

図書館の活用方法について

創造工学専攻1年 北島 秀希

図書館は、私たちの自主学習や進路決定、趣味などにおいて非常に重要な役割を果たしていますが、その魅力が十分に知られていません。多くの人は図書館をテスト前の自習室として利用するのみで、日常的に利用する人は少ないと思います。本エッセイでは、図書館の素晴らしさやその具体的な活用法について紹介します。

まず、図書館の最大の魅力の一つは、TOEIC対策が手軽にできるところです。高松キャンパス図書館には、豊富なTOEIC教材が揃っています。TOEIC教材は市販されている種類が多く、どの教材を使って勉強するか悩むことも多いです。また、書店ではそれらの教材がどれくらい難しいか自分で解いて確認できないため、いきなり購入するのをためらう人も多いでしょう。しかし、図書館ではそれらを手に取って実際に試すことができ、自分に合ったものを見つけることができます。これにより効果的な勉強方法を探ことができ、TOEICスコアの向上に繋がります。

次に、図書館は就職活動や進学において非常に役立ちます。進学を目指す学生にとって、大学編入学試験の問題集を借りられることは大きな利点です。これにより、試験の準備を早くから行うことができます。さらに就職を目指す学生にも、SPI試験の対策問題集や面接に関する基礎知識を学べる本を借りられるという大きな利点があります。これらを活用することで、それぞれの目標に向けた準備をしっかりと進めることができます。

さらに、高松キャンパス図書館では最新の文学作品を読むこともできます。芥川賞や直木賞、本屋大賞のノミネート作品や受賞作が簡単な紹介と共に展示されており、他の図書館では数か月待たなければならない人気作品も、高松キャンパス図書館では基本的にすぐに借りることができます。このため本が好きな人にとってはもちろん、普段は本をあまり読まない人でも流行の本に気軽に手を伸ばすことができます。

また、「ブックハンティング」というイベントも開催されています。このイベントでは、参加者が書店で自分の好きな本を選んで、図書館に購入してもらうことができます。購入する本の種類に厳しい制限はなく、参加者は自分の興味を広げたり、新しいジャンルの本に挑戦したりできます。近年は、絵の描き方やCG技術について学べるものやライトノベルなどが多く購入されています。

このように、図書館はたくさんのことを学ぶことができ、さまざまな活用方法があります。TOEICや大学編入対策、最新の文学作品を楽しむことができるだけでなく、さまざまなイベントを通じて初めての経験や新しい出会いも得られるはずです。ぜひ高松キャンパス図書館を訪れて、その魅力を実感してみてください。あなたの学びや生活が、きっと豊かになることでしょう。

過去を捨てて

創造工学専攻1年 林 直輝

「ドラえもん」という言葉を耳にしたことはあるだろう。今では世界的に大人気の国民的キャラクターである。小学生の頃はほぼ毎日漫画を読み、毎週放送されるアニメが待ちきれないほど大好きだった。そんなドラえもんについて話そうと思う。

誰しも一度は過去に戻ってみたいと考えないだろうか。ドラえもんでもよく登場するタイムマシンがあれば、恐竜を見に行ったり昔の生活を覗いてみたりできるようになるだろう。もちろん私も過去に戻りたいと考えたことは何度もある。もしタイムマシンがあるならすぐさま過去に飛び出していくだろう。ただ私には絶対にやりたいことが1つある。それは過去の失敗をなかったことにすることだ。

「ふざけるな、なんで他にはできて自分にはできないんだ」これまで私は何度も失敗をしている。そのたびに苦しく感じ、このような言葉を考えてしまう。時には泣いたことだってある。そのうえ、失敗を恐れるばかりか、物事にためらってばかりで本当に情けなくなる。もちろん得意不得意はあるし、そんなことはわかっている。ただ、負けず嫌いな性格なこともあって、どんなことにも他より劣ってしまうと悔しい気持ちでいっぱいになってしまう。だからこそ、失敗をなかったことにしたい。

しかしそんな中、ある一人のキャラクターを考えてしまう。ドラえもんに登場するのび太だ。のび太はとにかく何をやってもダメ、テストではいつも0点で、ジャイアン達にはいつもいじめられて仕返しできずにドラえもんに泣きついている。「ドラえもん！」というセリフを何度聞いたことか。そんなのび太だが、ある話をきっかけに大好きになった。それは「一夜漬けダル」という秘密道具が登場した話だ。これはうまくやりたいものと一緒に専用のぬかにつかることで、何もしくなくても上手くなってしまうものである。リコーダーのテストを控えるのび太はこの道具でズルをしようとしたが、スネ夫に奪われてしまった。しかし、いつものようにドラえもんを頼ると思ったが、一夜漬けで練習したのだ。その甲斐もあり、テストでのび太はいい成績を出した。この話で何よりも大事なのは、どんなことでも失敗してしまうのび太があきらめずに練習し続けていることだ。この話から、失敗を恐れないことの大切さを教えてくれた。この話を見たおかげで、今の自分があるんだとも思える、そ

んな素晴らしい話だ。

ここまで長々と書いてきたが、結局過去に戻ることは不可能だし、失敗ばかり考えるよりも、将来について考える方が良い。失敗に囚われるのではなく、前を向いて進んでいくことが大切である。ドラえもんのセリフにはこのようなものがある。「過ぎたことを悔やんでも仕方ないじゃないか。目はどうして前についてるんだと思う？前向きに進んでいくためだよ。」これからも失敗は何度もするだろう。しかし、未来に希望を持つことで、困難を乗り越え、より良い未来を築けられるはずだ。

今ではすっかりドラえもんの漫画やアニメを見なくなってしまったが、つらい経験をするたび、楽しそうにドラえもんを見ていた過去の自分を思い出す。そして、過去を捨てて前に進んでいこう。そう考えるのであった。

やはり、ReLIFEしても 俺の青春はバラ色ではない

機械電子工学科5年 シヨウ

本の世界では、青春はいつも理想化されたものだ。友達と笑い合い、恋に悩み、夢へ向かってまっすぐ進んでいく——そんな「キラキラな日々」が青春のイメージとして語られることが多い。私もかつてはそんなバラ色の青春に憧れていた。少なくとも、高校卒業するまではそうだった。だが、残念ながら、現実には残酷だ。

まるで雪ノ下雪乃と出会わなかった比企谷八幡のように、私はひとりぼっちで、孤独のままで高校卒業してしまった。友達は全くいなかったわけではない。ただ、自分の心のどこかで、他人との関わりに深く踏み込むことを避けていた。「やはり俺の青春ラブコメはまちがっている。(略：俺ガイル)」の八幡に影響された自分は、周囲が楽しんでいる青春をどこかで「偽物」だと感じ、他人に距離を置くことを選んでしまったのだ。

私は八幡になりたかった。もし全員分の「幸福」を手に入れるには自分が「犠牲」にならなければならないとしたら、私は躊躇なく自分を犠牲するだろうと本気で思っていた。そういう自己犠牲的な中二病じみたその生き方が、どこかカッコいいと感じた。もちろん、そういう考え方を貫徹した結果、クラスの人々に疎まれ、避けられた存在になった。

振り返ってみれば、それは当たり前の結果だと思う。なぜなら、比企谷八幡のような人間は現実に存在するとしたら、きっと嫌われているだろう。自己犠牲的なやり方はカッコよかったが、明らかに間違っている。八幡が自分を犠牲にするたびに、彼自身が傷つくだけでなく、彼を大切に思っている人々も同時に傷つけていたからだ。雪ノ下雪乃との関係を通じて、八幡は物語の最後に自己犠牲が正しい道ではないことに気付き、自分の生き方を改めた。「俺ガイル」はこれでハッピーエンドを迎えたが、私の人生はまだ終わっていない。高校を卒業しても、人生は終わらないのだ。

「やはり物語は所詮物語だな。」就職した私はそう思った。運命を変える出会いなんて、現実には存在しない。しかし、神様はどうやらちょっとした悪戯が好きなようだ。18歳の夏に、「ReLIFE」漫画を読みながら、新しい道を模索していた。そして、まさかの面接を通過し、2年後には高専に入ることになった。

まるで自分が「ReLIFE」したかのように、新しい生活が始まった。二十歳で高専3年に編入したのは、正直言って妙な感じがした。周りの人は自分より年下ばかりで、性格や考え方もだいぶ違う。私はまた、八幡のようになるか、または「氷菓」の折木奉太郎のような「省エネ」主義になるだろう。高専の男女比から見れば、千反田えるはたぶん現れないだろう。つまり、私を灰色な生活から無理やりに出すことができる人はない。ある意味、それはよかったな。むしろ、そんな人がいたら私は困るかもしれない。

「私たちの青春は多分終わったな。」成人式後の同窓会に、「ゲンリア充」同級生はそう主張した。当時、会場にいたほとんどの人がその意見に同意していたが、私はなぜか胸の奥に違和感を抱いた。決してあの人のことを嫌いなわけではなくて、ただ心の奥にいる自分はなんか納得できないものを抱えていた。

「成人になったら、青春は終わるか？」という疑問が頭を離れなかった。わからない、理解できない。私は一度も青春の実感を得たことないので、断言できない。ただ、心のざわめきが止められなかった。その時から変わらなかった自分は、今でもラノベ好きな自分の青春は、本当にもう終わったかな。そもそも、青春が終わったというのなら、一体いつ始まって、どこで終わったのだろうか。

やはり、私はまだガキだな。いや、変人と言った方が適切かもしれない。せっかくのReLIFEなので、暴れてみたい気持ちが湧いてくるのも無理はない。だから、やることは一つしかない。

私は私自身の「千反田」になる。他人との出会いで自分の人生を変えることを期待するような他力本願は、私には似合わない。だから、私は私自身の理由になる。たとえ道の先がバラ色でなくても構わない。私はただ、「ReLIFE」というチャンスを最大限に活かしたいだけだ。青春が灰色だったとしても、それが私の生き方であり、これからも続いていくのだ。

まあ、やはり、ReLIFEしても俺の青春はバラ色ではない。

文芸コンクール 入賞結果発表〈詫間キャンパス〉

第9回図書館文芸コンクール入賞者表彰式を、11月13日（水）に詫間キャンパスで実施しました。入賞者は以下のとおりです。



【詫間キャンパス】……………

俳句

グランプリ	通信ネットワーク工学科3年	岩本 羽未
優秀賞	1年3組	瀬戸 美月

短歌

最優秀賞	1年1組	古藤 蓮
優秀賞	1年3組	北山 杏莉

エッセイ

最優秀賞	1年3組	安宅 優馬
優秀賞	通信ネットワーク工学科3年	林 武幸

写真・イラスト

最優秀賞	電子システム工学科2年	渚 勇斗
優秀賞	通信ネットワーク工学科2年	池田 そら

小説

最優秀賞	1年2組	眞鍋 太一
優秀賞	通信ネットワーク工学科4年	安藤凜太郎

講評

詫間キャンパス

一般教育科 国語科

図書館文芸コンクールも第9回を迎え、応募総数376作品（応募人数147名）と多数の作品が集まった。以下、受賞者を中心として、部門ごとにコメントを付していく。

エッセイ部門は6作品の応募があり、最優秀賞に1年3組安宅優馬「時間、大切に」が、優秀賞には通信ネットワーク工学科3年林武幸「安楽死・尊厳死について考える」が選ばれた。最優秀賞の作品は、十代の若者らしい感性により、素直な気持ちが良く表現されている好篇である。優秀賞の作品は、難しいテーマに取り組んだ意欲作であったが、昨年度も福祉関連のエッセイで受賞しており、今年度は次点となった。また来年度は、違う視点の新しいテーマで投稿されたい。

小説部門には22篇の応募があった。最優秀賞は1年2組眞鍋太一「錯乱中」が、優秀賞には通信ネットワーク工学科4年安藤凛太郎「周泰伝」が選ばれた。最優秀賞の作品は、よく練り込まれた完成度の高い作品である。作者独特の感性が迸り、幻想的な世界観を作り上げている。ただ、その独自性故に、一般化されにくい表現が随所に見受けられた。その結果、審査員の評価が分かれ、惜しくもグランプリにまでは届かなかった。優秀賞は、中国は三国の時代を舞台とする歴史小説である。作者の「これが好き」という気持ちは良く伝わってくるが、情景描写や登場人物の心情表現など、小説としての表現方法

にもう少し工夫があればさらに良かった。

短歌と俳句の今回のテーマは「熱」である。「熱中」、「熱意」、気温・体温など温度の「熱」というような様々な切り口が可能であろう。今回、短歌には36首の応募があった。最優秀賞は1年1組古藤蓮の「見上げれば 夜空を覆う 花の舞い 今を忘れて 熱にのまれる」が、優秀賞には1年3組北山杏莉「友達と 熱く語った 帰り道 ふたりの影が 長くなってく」が選ばれた。どちらも「熱」の場面を上手に切り取って見せた。シンプルでいて、なにかしら物語を感じさせる作品に仕上がっている。

俳句は今回も、全部門中で最多の応募があった。308句である。俳句は字数が少ないけれども、意外に良い作品を生み出すのが難しい文芸である。そうした中で、今回は俳句からグランプリが選出された。グランプリは通信ネットワーク工学科3年岩本羽未の「暑い夏 笑い声と炭酸水」である。炭酸水のはじけるような音やイメージに、若者たちの笑い声や笑顔が重ね合わされている。五七五の短い言葉の中に、読者の気持ちをぐっと引き寄せて離さない面白さが感じられて大変素晴らしい句となっている。優秀賞1年3組瀬戸美月「熱気こもる 獅子舞の中 汗たたり」もよくできている。獅子舞の獅子の中で、一心に踊る一瞬の様子が伝わってくる。

写真・イラスト部門の最優秀賞は電子システム工学科2年渚勇斗「青の頂（あおのいただき）」、優秀賞は通信ネットワーク工学科2年池田そら「循環」が選ばれている。

なお、今回も書評は応募が無かった。この結果を受け、次年度からは新しい部門に変更する予定である。

以上で講評を終えるが、来年度はいよいよ第10回を迎えることになる。今年度以上に、さらなる良き作品と出会えることを期待する。

入賞作品紹介

〈詫間キャンパス エッセイ〉

最優秀賞

時間、大切に

1年3組 安宅 優馬

気が付けば15分、1時間、2時間あっという間に過ぎている。これがインターネットサーフィンをする僕だ。インターネットという、広大な海から上がった時、「今の時間はどこだったのだろう」と思う。次から次へと流れてくる情報に身を任せながら、いえ、飲み込まれながら空虚な時間を過ごしてしまう。僕はサーフィンが下手なのだ。ある時、自分のスマートフォンのスクリーンタイムを見てみた。驚くことに過去1週間で20時間もスマホを見ていたことが判明した。その時間で何ができたろうか。宿題を終わらせる、遊びに出かける、ランニングを

するなど、有意義な20時間の過ごし方はいくらでもあったはずだ。空虚な20時間を過ごしてしまったことを本当に後悔する。

時間とは本当に尊いものだと思う。僕はネットサーフィンをしているときにこのような言葉を目にした。「流れさった時間は二度とかえってこないんだ」これは、ドラえもん言葉だそう。当たり前のことを言っているが、はっとさせられる。今流れているこの1秒は、この一文を書き終えるころには二度と帰ってこないものになっている。そう考えると、今、この時間を大切に生きなければと気づくことができる。（この言葉を見つけた時のサーフィンに限ってはうまくできたと我ながら思う。）大切な時間を何に使うべきなのか。下手なサーフィンを終えた後に後悔をかみしめながら考えることがある。

その答えを探すのは非常に難しい。時間の使い方はそれぞれに任されている。自由なのだ。だから下手なサーフィンをしていても何も起こらない。時間は私たちのことなど気にも留めず、ただ淡々と過ぎてゆく。たとえその時間の使い方が空虚なものだったとしても叱ってくれない。仮に有意義なことをして過ごしても時間は賞賛の

言葉をかけてくれない。時間の使い方は、制限されず自由であるために賢い使い方を見つけるのは難しいのだろう。

時間が話しかけてくれればどんなに楽だろうか。「その時間の使い方は後で後悔するぞ」と叱ってくれたり「それは良い時間の使い方だ」とほめてくれたりすれば、時間の使い方を決めるのはそれほど難しくはないのだろうか。しかし、時間に「話しかけてほしい」と甘えたことを言っても話しかけてくれないのが現実だ。

そうであれば、自問自答を繰り返し、時間を何に使うべきなのかよく考えることが必要だと思う。今の自分は何を優先すべきで何に時間を使うべきなのかを自分に問いたい。そして最大限考えて答えを出したい。

これから後期が始まる。後期が終わった後に、「素晴らしい後期だった！」と胸を張って口にできるようにしたい。そのためには時間を賢く使うことは必須だろう。初めはうまく時間をマネジメントするのは難しいかもしれない。しかし、継続して続けていきたいと思う。

1日後、1分後、1秒後には今流れている時間は戻ってこないということも心にとめておきたい。

〈詫間キャンパス 小説〉

最優秀賞

錯乱中

1年2組 眞鍋 太一

私はどうも普通の人とは異なるようで、金魚鉢の中で暮らしている。服も着ていないし、大きさもはるかに小さい。食事もあり、普通の人とは熱を放つミステリアスな塊や、筒状の容器に入ったグチャグチャの何かをよく食べるのに対し、私は乾燥イトミミズやミジンコをよく食べる。排泄も適当な場所で済ませなければならない。

では、私は人間ではなく魚ではないか？確かにエラ呼吸で生きているし、うろこもある。しかし、私には背びれというものがなく、人間のように顔が気持ち悪くブクブクに膨れている。さらに言えば、魚のように首をはねられ体を切りきざまれ人に食われることはなく、対等に話すことができる。これらの理由から私は、自分は魚に近い特徴を持つ少し普通ではない人間だと考えている。

私が暮らしている金魚鉢の外には、温かみを感じる人工的空間が広がっているように見える。そこによくやってくるやつが中岡寿明という男である。ハゲでデブでメガネ、結婚もしておらず、明るい表情をあまり見たことがない。しかし、私に食べ物を持ってくる、コミュニケーションをとる際は楽しそうにしてくれている。楽しそうに何よりだが、「でちゅね〜」など気持ち悪い言葉遣いであることは気に食わない。

そんな中岡ももうすぐ60歳らしく、定年退職というやつをするとのこと。それに比べて私は仕事もできてないのだから恥ずかしい。でも確か普通は義務教育を終えないと働けない。労働基準法というやつだ。だが、私は義務教育を受けられていないので働ける年なのかどうか見当

がつかない。そもそも義務教育を受けられていないというのはおかしくないか？学校教育法うんたらかんたらってのがあるのではないか？私は就学義務違反ということか…その場合、私の保護者が罰せられるのか？あれ、私の保護者とは誰だ？中岡ではないはずだ。まず中岡ならいやだ。私は普通の人とは少し違うと思うが、親の存在はあるはずだ、生物である以上。物心ついたころは、金魚鉢ではなく水槽に住んでいた。隣り合う水槽には、何を目的に生きているのかわからんエビみたいなやつと、きれいだか体がアンバランスな魚がいた。後で知ったことだが、あの魚はグッピーというらしい。そこには毎日いろんな人が来た。その中に私の保護者がいたのだろうか。そしてある日、中岡が私を連れて帰り今に至るのである。金魚鉢生活3年、私が何歳のころに物心がついたか知らんが、もしかするとまだ6歳に達しておらず、義務教育を受けなくてよいということなのかもしれない。元も子もない結論に至った。

そんなことを考えていると中岡が帰ってきた。残り勤務数もあと少しのはずだ。こう見ると昔からこんな容姿だが、少し貫禄が出たように感じる。そして今日の中岡はにこにこしていた。極めて不気味で気味が悪い。中岡は私に乾燥イトミミズをくれると、いつものようにしゃがみ込み金魚鉢の前に油でギトギトの顔を持ってきた。

「ねえねえ聞いてよお〜あのね〜会社みんながね〜中岡さんの定年祝いしましょ〜ってね〜言うんでちゅよお〜」

よくよく考えたら、まだ義務教育も終えてない人にこんな接し方して、こちらの恐怖より、こいつへの心配が勝つ。

「最近さあ〜時代が変わったから〜飲み会とか減ってたんでちゅよ〜けど、若い人から〜こう、ねえ？定年祝いのお話を言ってくれたからうれち〜のよ〜」

中岡は私の唯一の会話相手、こんなのもうれしくないわけではない。中岡がいない間はハエやらゴキブリが来てくれるが、虫とはコミュニケーションがとれない。窓の外に猫が来ることもあるが、当然猫ともできない。にゃーにゃー鳴いているだけ。

「なんかさ〜生きててよかったなあ〜って、思うよねえ〜」

こいつはいきなり何を言っているんだ。生きている方が良いという一般常識に疑問を持ち、その疑問を今解決したということか???

「今日はねえっへ!! いつもよりいい酒買ってきましたよ〜ん!!」

毎度毎度、まだ酒が入ってなかったのかとびっくりさせられる。

中岡はカンカラを片手にテレビを見る。最近は衆議院選挙についてのニュースが多い。まだ私に選挙権はないが、もしあったなら、普通の人と少し違う人がより生活しやすいようにする政策を、とってくれる人に投票するだろう。でも正直言って世界の流利的に何もしなくても、私たちはより生活しやすくなると思う。

「キミなら〜どんな人を〜支持するの?」

中岡がいきなり話しかけてきた。

「イトミミズを各家庭に配る政策の人はいないぞ〜へっへっへえ〜のよいよいよ〜」

そんなこと言っていないがな。

にしても、飲みに誘われただけでこんなに機嫌がよくなるとは、遊びに誘われた子供のように。私と話す以外に、このジジイがうれしそうにしているよかった。3年前に中岡の母親が亡くなり、父親は子供のころからいなかったらしく、これで中岡に家族はいなくなってしまった。人とかかわりが苦手な友達といえる人もいない。独りぼっちになった中岡は、たまたま立ち寄った店で私を見つけ、運命を感じ連れて帰って来たのだとさ。やはり運命だの気持ち悪いやつだ。

次の日、中岡は体調が悪そうだった。飲みすぎというほど飲んでないし、症状から見て多分感染症だろう。私は一人で、インフルエンザとコロナの二択でコロナに賭けていた。そして会社に電話を入れてから、病院に行ってくるらしい。さてさて、どちらが起きているか…

中岡が病院の検査から戻った。綿棒で鼻の奥を小突かれたらしく痛そうにしている。

「ねえねえ〜コロナだったよ〜」

べつに勝負相手はいないが私は賭けに勝った。

「コロナだからさあ〜1週間みんなと会っちゃいけないんでちゅよ〜だからあ、定年祝いは延期だ〜」

確かにそうだ。気の毒だ。

「延期でいつになるかわからなあいしね〜この日は家で二人焼肉しよーねー!!」

味が分からないであろうに何を言っているんだ。私の声はガラスの壁を超えることができず、アホの中岡はネットで小型ホットプレートと安い牛肉を買い始めた。

そして定年祝いをする予定だった日、既に2缶開いていた。テレビではお笑いをしている。

「もおっと〜過激なことやあれ〜」

ホットプレートの前でずしりと座り、カリッカリによく焦げたハラミを食べながら中岡はそんなことを言っている。味が分かるのか知らんが、まったく元気な60歳だ。少し早いけど、誕生日おめでとう。

「換気ついでに庭に出よ〜あっ!!アンタも行こ〜」

中岡は私を金魚鉢から、掃除のときに私を入れておく小さめの容器に移した。

そして庭に出た。初めてのことであった。前に中岡から聞いていた話の通り、ここは庭のあるマンションの1階の部屋だった。

「見てごらん〜ほら満月デス!!」

実物を見るのは初めてのことであった。確か直径は1738km、重力は地球の1/6だったはず。そしてあの光は太陽の光の反射。なんかすごいな。

「暑い!ムシムシ暑い!トイレもいきたあい!」

酔っている中岡は何を考えているのかよくわからない。

私は金魚鉢に戻され、中岡はトイレに走りこんでいった。もっといろいろ見ていたかったなと思った。金星とか

木星の輪とか飛行機とか人工衛星とか、あわよくばUFOを!

ジャーとトイレの流れる音がしたと思えば、

「ヴギャア!!!」

少し後に短い断末魔が聞こえた。この感じはぎっくり腰だな、前も似たようなことがあったからわかる。ビールの詰められた段ボールを持ってこようとしたってところかなと、私は勝手な予想する。

ふと庭に目をやると、いつもの猫がいた。肉のにおいに誘われたのか、避暑地を求めてやってきたのか。まさに、中岡に猫の手を貸してもらいたい。

猫はこちらを見ている。

猫は私を見ている。

猫は部屋に入ってきた。

やばいと思ったその瞬間、猫は一気に近づいてきた。

そして猫は金魚鉢の前まで来た。

猫は中を覗き込み、

猫は金魚鉢にゆっくり前脚を入れた。

その瞬間、私の膨れた頭に鋭い爪が刺さり、そのまま金魚鉢から引きずり出される。何が起こったのか考えることはできなかった。痛みを感じる。間髪入れず私の背中が噛みつかれた。身をゆっくり剥がれ、また噛みつかれる。私の背骨も粉々だ。そしてもう一方の脚の爪が私の腹に刺さり、そのまま脚を動かされ、腹を引き裂かれる。私の声帯が特殊なのか、叫べない。こんなに痛いのに。愛玩動物を前にして恐ろしい経験をしている。うすぼけてくる視界に、臓腑のような部位が見えたかもしれない。

「おいゴラァ!!!クソ猫!!!何してんじゃ!!!」

地獄の鬼かのような怒鳴り声、猫は驚き頭に刺さった爪を抜こうとする。そして私の目玉はえぐられる。地を鳴らしながら中岡が来て、猫を思いっきり蹴り飛ばした。猫は宙を舞って吹っ飛んだが、見事に着地して逃げて行った。啞えられていた私も宙を舞ったが、途中で放された。着地点の隣には牛の死骸があった。あら、いい匂い。

「アア”アあ”ああ”アああ”あ”ああ”ア”あアアああ”あアああ”!!!!!!」

中岡はとても泣いている。ぎっくり腰は大丈夫なのだろうか。そして私を鉄板から金魚鉢に入れたが、これといって現在の状況が変わるわけもなく、私は死んだ魚の目をしていただろう。

「俺が窓閉めてればあ!!!死なないでえ!!!お願い、本当に!!!イヤァァァ!!!」

60歳のとても情けない姿。

でも、もし私が魚だったら、こいつはこんな情けない姿にはならないはずである。やはり私は人間なのだろう。グチャグチャになってしまったが、私は人間であるという証明をできてうれしかった。

〈詫間キャンパス 俳句〉 テーマ「熱」

グランプリ 暑い夏 笑い声と 炭酸水

通信ネットワーク工学科3年 岩本 羽未

優秀賞 熱気こもる 獅子舞の中 汗たたり

1年3組 瀬戸 美月

〈詫間キャンパス エッセイ〉

優秀賞 安楽死・尊厳死について考える

通信ネットワーク工学科3年 林 武幸

〈詫間キャンパス 小説〉

優秀賞 周泰伝

通信ネットワーク工学科4年 安藤 凜太郎

〈詫間キャンパス 短歌〉 テーマ「熱」

最優秀賞 見上げれば 夜空を覆う 花の舞い 今を忘れて 熱にのまれる

1年1組 古藤 蓮

優秀賞 友達と 熱く語った 帰り道 ふたりの影が 長くなってく

1年3組 北山 杏莉

〈詫間キャンパス 写真・イラスト〉

最優秀賞 青の頂(あおのいただき)

電子システム工学科2年 渚 勇斗



青の頂(あおのいただき)

優秀賞 循環

通信ネットワーク工学科2年 池田 そら



循環

教員・学生による推薦図書

※推薦図書は図書館で貸出できます。

教員〈高松〉

文系と理系はなぜ分かれたのか

▶ 隠岐 さや香 (著) 〈星海社〉

高専生の皆さんは、多くが自分は理系の学生であると考えていることでしょうか。しかし、その〈理系〉とは何でしょうか。あるいは〈文系〉とは何でしょうか。例えば文学作品を計量分析する研究はどちらでしょうか。化学の歴史を編む研究はどちらでしょうか。

かつての学問では、現代ほど文理の境界が明確ではありませんでした。本書はその境界が分かれてゆく過程、分かれた先にある現代の問題に注目します。是非、皆さんは問い直してみてください。自分は本当に〈理系〉と言って良いのでしょうか。

一般教科教員 古明地 樹



The Three Little Wolves and the Big Bad Pig

▶ Eugene Trivizas (著) 〈Margaret K. McElderry Books〉

タイトルから容易に推測できますが、有名な「三匹の子豚」の逆バージョンです。母狼から自立を促された三匹の子豚は、カンガルー、ビーバー、サイの協力を得て自分たちの家を建造します。そこに大きくて悪い豚が現れて、極悪非道な手段で次々と家を破壊していきます。そして、その結末は意外なことに…。本書は英語で書かれていますが平易な英文であり、かつイラストが秀逸なので楽しんで読めると思います。

機械電子工学科教員 相馬 岳

技術革新と不平等の1000年史(上・下)

▶ ダロン・アセモグル、サイモン・ジョンソン (著)
鬼澤 忍、塩原 通緒 (翻訳) 〈早川書房〉

香川高専は実践的な技術者を育成する教育機関であり、我々は科学技術の進歩が人類社会の幸福につながると信じています。しかし、歴史を振り返ると必ずしもそうではありません。AIによる技術革新が現在進行形で起こっている今、我々は何を知る必要があるのでしょうか。本書では人類の長い歴史の中で起きた様々な技術革新とその影響を紐解きながら、科学技術の恩恵が社会に広く浸透するために何が必要かを考察しています。著者の一人であるダロン・アセモグル教授は2024年のノーベル経済学賞受賞者であり、広範囲に渡る研究業績で知られています。技術革新とその社会実装を使命とする者として、高専の学生・教職員問わず手に取って欲しい本です。

機械工学科教員 木村 祐人

橋なぜなぜおもしろ読本

大野 春雄(監修) 長嶋 文雄・服部 秀人・菊地 敏男(著) 〈山海堂〉

私たちの快適な暮らしを支え、災害時の人命を救う「橋」、単なる橋として存在するのではなく、橋には歴史があり、これまでに、様々な角度から熟考された構造形式や設計方法、橋造りの施工方法や構成材料、更に、地震に強い橋造り対策が考えられてきました。

本書は、橋全般に関する疑問や先端技術的問題がQ&A形式でまとめられています。是非、本書を手にとって、私たちの暮らしの安全・安心を実現している橋に秘められた魅力に触れてみませんか。

建設環境工学科教員 松本 将之

教員〈詫間〉

「何回説明しても伝わらない」はなぜ起こるのか？

▶ 今井 むつみ (著) 〈日経BP〉

「何回説明しても伝わらない」という状況は、コミュニケーションの難しさを象徴しており、相手の理解度や背景知識の違い、伝え方の工夫不足など、様々な要因が考えられます。同じ言葉を使っても、受け手の解釈が異なると伝わり方も変わってきます。認知科学と心理学の観点から、この問題の本質や解決策のヒントがこの本の中にあります。伝えたいという思いと相手の気持ちを思い遣る人間力がコミュニケーションの本質だと教えられる一冊です。あなたはこのテーマについてどう感じますか？

電気情報工学科教員 漆原 史朗

マラソン中毒者

▶ 小野 裕史 (著) 〈文藝春秋〉

この本の著者小野裕史さんを知ったのは、2012年頃だったと思う。山口萩往還マラニック140kmの部をUstream中継しながら走るランナーがいた。翌朝70kmの部のスタートを控えた自分はホテルでそれを見た。その後、彼のブログを購読することになった。この本はそのブログのディープな部分を編集したものである。ブログを読んでいて号泣したことがある。「としを」さんについて語る部分だ。

本キャンパスのDCONチームのメンターを務めた彼だが、現在、財産を100万円だけ残し、インドで出家した。

通信ネットワーク工学科 真鍋 克也

科学と人生

▶ 中谷 宇吉郎 (著) 〈角川文庫〉

著者は世界で初となる人工雪の製作に成功した物理学者です。しかし、この本でもわかるように随筆家でもあります。師匠は寺田虎彦という高知県出身の物理学者かつ随筆家です。両名の随筆作品の多くは、インターネット上の電子図書館である青空文庫で公開されているので興味がある人は是非読んでほしい。

「科学と人生―若い人のために―」の出だしが“科学はなんのために学ぶか”である。若い人のためといっても太平洋戦争後のエッセイなので随分昔ではあるが、何だか分かりますか？その答えは今でも十分通用するでしょう。あえて答えは書かないので、ぜひ読んでみてください。特に専攻科生に読んでもらいたと思います。読み進めるうちに、どう科学と向き合い、取り組むべきかという研究者としての姿勢が見えてきます。研究に疲れた時こそこの本で一休みして下さい。

情報工学科 宮武 明義

学生〈高松〉

エースナンバー 雲は湧き、光あふれて

▶ 須賀 しのぶ (著) 〈集英社オレンジ文庫〉

私が推薦する本は、小説の「エースナンバー」という一冊です。この本は、弱小野球部の監督等の目線で描かれた高校球児のスポーツ青春ストーリーです。

ざっくりとストーリーを説明すると、27歳の若杉という男性教師がいきなり高校野球部の監督に就任させられ、球児と共に試合に挑み続けてチームの輪を強くし、弱小野球部に革命を起こす、という感じのストーリーです。

この本はまた、続編等もありとても面白く、感動的で個人的には1番好きな話ですので、是非皆さんにも読んでみて下さい！

1年1組 (CV) 今治 煌我

インスマスの影 クトゥルー神話傑作選

▶ H・P・ラヴクラフト (著) 南條 竹則 (編訳) 〈新潮文庫〉

「這いよれ！ ニャル子さん」、「クトゥルフ神話 TRPG」など、様々な媒体により日本でも徐々に知名度を獲得しているホラー小説体系である「クトゥルー神話」。その開祖であるラヴクラフトの傑作7つを収録している。

クトゥルー神話最初の作品「クトゥルーの呼び声」を筆頭に、そのほとんどが最初期の作品であるが故に、事前知識の必要がなく、まさに入門書としてふさわしいといえる。

少しでも興味を持っている方は、是非一度手に取ってみてほしい。

1年2組 (MS) 沖 真之

盾の勇者の成り上がり

▶ アネコ ユサギ (著) 〈KADOKAWA〉

私が推薦する本は小説「盾の勇者の成り上がり」です。大まかなあらすじは、主人公である岩谷尚文が異世界に召喚され、様々な理不尽に直面し、それを乗り越えていく異世界ファンタジーとなっています。

私がこの本を推薦しようと思った理由は、登場人物のそれぞれの主観による立場の違いが面白いと思ったからです。見る人の視点によって誰が正しいのか、何が間違っているのかが変わり、正しくてもそれがいいことなのかなど、哲学的な要素も含まれているように感じました。

機械工学科 2年 岡内 悠人

完全版アリス物語

▶ ルイス・キャロル (著) 芥川 龍之介・菊池 寛 (共訳) 澤西 祐典 (解説) 〈グラフィック社〉

皆さんは、小学生または幼稚園児の頃に「不思議の国のアリス」を読んだことはありますか？なんと私、読んだことがないです。私は今現在図書委員をしているというにもかかわらず子どもの頃から活字が大の苦手、今回はそんな私でも気になった一冊を紹介いたします。

「芥川龍之介・菊池寛共訳完全版アリス物語」香川県出身の菊池寛と有名な文豪芥川龍之介が翻訳しているこの本、題名などを見ると少し小難しそうに見えますが所々にふりがながふってあったり、挿絵があったりと読みやすい一冊です。変わった言い回しなどもあり新鮮な雰囲気です。

電気情報工学科 2年 大嶋 琴音

化物語

▶ 西尾 維新 (著) 〈講談社〉

「青春に、おかしなものは『つきもの』だ」

高校2年の春休みに吸血鬼を助け、誰も幸せにならない全員が等しく不幸となる選択を選んだことで吸血鬼のなりそこない、限りなく人間に近い吸血鬼となった阿良々木暦は怪異と行き会ってしまった少女たちと出会う。怪異の専門家、妖怪変化のオーソリティ忍野メメと共に少女たちが助かる手助けをしていく。

戯言シリーズや忘却探偵等で知られる西尾維新の手掛ける怪奇ファンタジー、化物語をぜひ読んでみて下さい。

機械電子工学科 2年 大内 智樹



TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のセンテンス

▶ TEX 加藤 (著) (朝日新聞出版)

大学編入や専攻科などに行く方は必ずと言っていいほどTOEICを受けますと思います。

そこで、私がお勧めする本は「出る単特急 金のセンテンス」です。この本は初心者から上級者まで幅広い方が使用することができます。

なぜならこの本は、文として単語を覚えることができるからです。文として覚えることでより一層勉強や日常でも使えるようになると思います。また単語を覚えながらリスニングもすることができるため、時間を効率的に使いたい人などには特にお勧めだと思います。

建設環境工学科 3年 三好 彩斗

天久鷹央の推理カルテ

▶ 知念 実希人 (著) (新潮文庫)

「天久鷹央の推理カルテ」は医療知識がふんだんに詰まった「雑学推理小説」である。推理小説でありながら、実際には謎解きより雑学トークに近い内容が魅力だ。

高専生にとって、医療知識はちょっと距離感を感じる世界かもしれないが、わかりやすく楽しく描かれており、天久鷹央と助手・小鳥遊優のやり取りも読みどころだ。雑学好きな人だけではなく、一般の読者でも気軽に読める一冊だ。

シリーズ全巻は図書館にあるので、興味があったらぜひ読んでください。

機械電子工学科 5年 シヨウ

浜村渚の計算ノート

▶ 青柳 碧人 (著) (講談社文庫)

日本の教育から排除される理系科目。数学の地位向上を目的に天才数学者・高木源一郎率いる黒い三角定規がテロ活動を開始した。彼らのテロに対抗すべく警視庁が頼ったのは13歳の数学少女、「浜村渚」だった。

この本を読んだ後、あなたはきっと少しだけ数学が好きになるはずだ。

最後に、僕の好きな彼女のセリフを引用したい。「0で割っちゃ、ダメです」「これは、私たち人類が悪魔と交わした、数学史上最も重要な約束の一つです」「悪魔との約束、破るんですか?」

機械電子工学科 4年 丸山 創大

学生〈読間〉

Cruelty

▶ Roald Dahl (著)

ロアルド・ダールは、すべての年齢層にわたって読者を魅了する有名な物語作家の1人である。「Cruelty」は彼のユニークでタブーなジョークセンスから、人間の感情や道徳の複雑さを探求する短編小説である。この物語を読むべき理由はいくつかある。

まず、この物語は復讐をテーマに深く掘り下げている。物語の主人公は、裏切りや屈辱の感情と向き合い、復讐を行うまでの過程で自己反省を促される。ダールは人間の感情の強烈さを巧みに描写し、復讐をすることによってもたらされる結果について読者に考えさせる。

さらに、物語の皮肉な結末はダールの作風を象徴している。驚くべき結末は、読者を引き込む要素となり、物語全体にわたる期待感を生み出す。この結末は、読者の時点から人生の予測不可能な人生や行動の影響性を考えさせる要素でもある。

ダールの生き生きとした(リアルな)描写や鋭く個性的なキャラクター性は、物語に命を吹き込む。物語を読み進める中で主人公と共に旅をし、読者は彼らと感情を共有することで、彼らの選択がもたらす結果について考えることが出来る。

最後に、「Cruelty」は、感情や行動から引き起こされる、自身の人生や他者への影響を加味して推測する重要性を教えてくれる。近年、人間関係に苦手意識を持つ若者が増えてきている中、ダールの物語は再度、自身を見つめ直し他者との向き合い方を改めるきっかけを促してくれる。

このように、「Cruelty」はブラックジョークであるタブーな話題と道徳的な問いを巧みに組み合わせた魅力的な物語である。ダールの作品を初めて読む方にも、彼のファンにも、印象に残る一作となることであろう。

通信ネットワーク工学科 4年 アキル

スマホ時代の哲学 失われた孤独をめぐる冒険

▶ 谷川 嘉浩 (著) (ディスカヴァー・トゥエンティワン)

私は、スマホ依存に片足をつっこんでいる。特にYouTubeなど、1回見始めるとなかなか視聴を止めることができない。

ここで、私が救いを求めたのが、表題の本「スマホ時代の哲学 失われた孤独をめぐる冒険」だ。この本は、哲学者である著者が、SNSなどで繋がっているが、寂しさを感じがちな私たちに生きるヒントを数多くの哲学者が残した言葉やアニメなどを用いて解くという内容になっている。「エヴァンゲリオン」や「燃えよドラゴン」などアニメや映画などを例に出しながら説明していくので読みやすい。

本書では、退屈、もやもやといった感情から逃げる為に、現代人は、はつきりとした分かりやすいコンテンツに逃げているということが指摘されている。私がスマホを意味もなく触ってしまうことの理由が言語化され心地よい。

私のように意味もなくスマホを触ってしまう人にこそ読んでほしい。読了後、きっと見識が深められるはずだ。結局、スマホを見ることが止められなかったとしても。

機械工学科 5年 福岡 忠之

続 わけあって絶滅しました。

丸山 貴史 (著) (ダイヤモンド社)

『続 わけあって絶滅しました。』は、現代では見ることのできない様々な絶滅した生物を取り上げ、その背後にある理由を探るユニークな作品です。本書では、絶滅のメカニズムやその影響を解説しつつ、各生物の生態や特徴を生き生きと描写しています。特に、人間の活動がどのように自然環境に影響を与えたのかを考察し、読者に環境保護の重要性を訴えかけます。また、単なる科学的情報にとどまらず、物語性を持たせることで、絶滅した生物たちの生き様やその消失の痛みを感じさせる内容になっています。イラストが豊富に使用され、恐竜から哺乳類や昆虫まで、多彩な生物が自分の言葉で語るかのような構成になっており、子どもから大人まで楽しめます。生態系のバランスの大切さや、私たちの選択が未来にどのような影響を及ぼすのかを考えるきっかけを与えてくれる一冊です。読むことで、絶滅の悲劇を単なる過去の出来事としてではなく、現在と未来に対する警鐘として受け止めることができるでしょう。

「絶滅」という重いテーマをあえて明るく描かれているため、生物に興味がある方だけでなく軽い読み物としてもおすすめです。この本を通して、絶滅の理由と進化の不思議さについて思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

情報工学科4年 大川 裕介

ひとり分やる気1%ごはん

ハマごはん (著) (KADOKAWA)

「料理をするきっかけ」

ある日、図書館を訪れると新刊コーナーで参考書や小説が置かれる中、一冊だけ料理本が置かれていた。なぜ料理本？と疑問に思い、手に取ってみた。休みの日、昼ご飯をどうしようか悩んでいる時、早速この本を読んでみることにした。載っているレシピや時短テクはどれも実用性が高く何度もリピートした。また、レシピやテクはどれも簡単なもので普段料理をしない私でも手軽にできた。

夏休みなどの長期休暇で昼ご飯をどうしようかと悩んでいる人、普段料理をしない人にぜひ手に取って料理をするきっかけになってほしい。

電子システム工学科2年 太田 惺天



教員によるエッセイ

現代教育とChat GPT

一般教育科(数学) 高木 蓮

現代の教育は、技術の進化に伴い急速に変化しており、人工知能(AI)の導入はその中心的なトピックの一つです。特に、自然言語処理技術を活用したChat GPTのようなAIは、教育現場において新しい可能性を切り開いています。Chat GPTは、教師や生徒にとって便利なツールであり、効率的な学習支援や個別指導の提供、知識の探索に役立つ存在です。

まず、Chat GPTは教育における知識のアクセスを劇的に向上させました。生徒は、授業で分からなかったことや疑問点について、即座にChat GPTに質問し、迅速かつ的確な回答を得ることができます。この即時性は、従来の教科書や参考書を検索する時間を短縮し、効率的な学習をサポートします。さらに、多くの分野にわたる情報にアクセスできるため、生徒は自己学習の幅を広げることができます。

また、Chat GPTは個別化された学習支援にも強力なツールです。従来の授業は、一人の教師が複数の生徒を同時に教えるため、すべての生徒のニーズに細かく対応することが困難でした。しかし、Chat GPTを活用することで、生

徒一人ひとりに合ったペースや方法で学習を進めることが可能になります。例えば、数学学習では微分積分といった抽象的なトピックを、日常的な例を使って説明したり、複数の視点から解説したりすることができます。また、数学の問題を解く際、Chat GPTはステップごとの解答を提供するだけでなく、なぜその解法が適切なのかを説明します。

さらに、教師にとってもChat GPTは効果的なツールです。授業準備の効率化や、生徒の質問に対する即時の応答、さらには授業後の個別指導の補完として利用することができます。特に、大量の課題を抱える教師にとって、AIの支援は業務の軽減につながり、生徒により多くの時間を割くことが可能になります。

しかし、AIの導入には課題もあります。Chat GPTは大量のデータに基づいて情報を提供しますが、その正確性や信頼性には限界があります。教師や生徒はAIの回答を鵜呑みにするのではなく、情報の批判的な評価を行うスキルを持つことが重要です。また、AIによる過度な自動化が生徒の自主性を削ぐリスクもあり、教育の根幹にある「人間性」の重要性を見失わないようにすることが求められます。

総じて、Chat GPTは現代教育において非常に有益なツールですが、その効果を最大限に引き出すためには、AIを適切に活用し、批判的思考や人間性を重視した教育とのバランスを保つことが重要です。現代の教育者や生徒は、技術の恩恵を享受しつつ、学習の本質を見失わない姿勢が求められています。

図書委員長より

読書の良さ

高松キャンパス 図書委員長
建設環境工学科4年 秋澤 弘大

読書は、知識を深め、想像力を広げ、人間としての成長を助ける素晴らしい習慣です。今の時代はスマートフォンやインターネットが発達しており、すぐに情報を手に入れることができます。つまり読書はそれらと比べ情報を得る手段として劣っているように感じます。そこでなぜ今の時代に読書をおすすめするのか、その理由をお伝えします。

まず、読書は知識を得るための貴重な手段です。本には、著者が時間をかけてまとめた情報や経験、世界観が詰まっています。例えば、小説を読めば感情を揺さぶられるような非現実を感じることができます。また歴史の本を読めば過去の出来事から現代に至るまでの背景を知ることができます。また専門書を読めばその分野の知識を点ではなく範囲で知ることができます。本はこのよう

な知識を体系的に得ることができる点がスマートフォンなどより優れていると感じます。

また、読書はリラックスや気分転換にも役立ちます。現実の世界から少し離れ、物語の世界に没頭することで、心が落ち着き、リフレッシュすることができます。愛着感や本の香りでリラックスすることも可能でしょう。一方でスマートフォンはストレス解消にはなるでしょうがブルーライトで眼精疲労が溜まります。これも本の優れている点です。

また、読書の楽しみは、自分に合った本を見つけることです。読みたい本が見つからない場合は、尊敬する先生のおすすめの本や図書委員が推薦する本を読むと良いでしょう。このような勧めたり勧められたりすることができるのもある程度内容量のある本媒体ならではの楽しみです。

つまりは読書は、知識を深め心をリフレッシュさせる効果があります。日々の生活の中で、本とふれる時間を少しでも持つことで新たな世界を知り、読書で本を自身の糧にしていきましょう。

読書・図書館利用のすすめ

20代で身につけたい本の読み方

高松キャンパス
通信ネットワーク工学科5年 白木 彩嘉

夏休みの宿題として定番の読書感想文に苦労した人も多いのではないだろうか。著者が大学に入学するまで漫画しか読んでいなかったため、皆さんと同じ経験を味わっている。しかし、1冊の本と出会い本の虫となった彼はのちに、「これから先に起こる未知の難題に対するすべてのヒントは、すでにどこかの誰かが本に書いてくれる」と述べている。

この本は、第1章から第8章の構成でそれぞれ10の項目について説明されている。1つの項目が見開き1ページにまとめられているため、読書が苦手な人にも読みやすく分かりやすい。第1章は、本を読むメリット、第2章は、本が背中を押してくれる「行動力」、第3章は、本が教えてくれる本当の「コミュニケーション力」、第4章は、本が伸ばしてくれる効率的な「勉強力」、第5章は、本が磨いてくれる結果を出す「仕事力」、第6章は、本が導いてく

れるお金の不安から自由になれる「経済力」、第7章は、本が加速してくれる「成長力」、第8章は、人生を変える本の「買い方・読み方」について執筆されている。

私が印象に残った項目についてお伝えしよう。

本を読むからお金に余裕ができる。

著者が様々な会社を見てきて知った事実がある。社員がみんな忙しくして、やたらに労働時間が長い会社は倒産一直線に向かっていることだ。最初の立ち上がり際には誰もが不慣れなこともあって忙しいように見えるが、それが続いているようでは何も成長していない証拠である。ゆったりと好きなだけ読書できるような時間のある人にいい知恵が授かり、ドっとお金が流れ込んでくるように人生はできている。だから、お金持ちを目指すより時間持ちを目指す。結果として読書する時間持ちは、お金持ちにもなりやすい。

参考図書：『人生で大切なことは、すべて「書店」で買える。20代で身につけたい本の読み方80』、千田 琢哉（著）、日本実業出版社

専攻科生より



図書館での2年間の学び

創造工学専攻2年
山下 隆之介

私は、高専の専攻科に在学中の2年間、図書館でアルバイトをしていました。私にとって図書館はとても魅力的な場所であり、職員の方に大変お世話になりました。最初に覚えた業務はカウンターでの対応で、主に本の貸出や返却を担当しました。最初は非常に緊張していましたが、職員の方が丁寧に指導してくださったおかげで、徐々に自信を持って対応できるようになりました。特に印象に残っているのは、新規利用者の登録業務です。初めて担当した際にはスムーズに対応できず、利用者を待たせしてしまった経験があります。この経験を反省し、すぐに職員の方に報告したうえで、マニュアルを見直し、より効率的な対応を心がけました。この出来事を通じて、業務改善の重要性や、利用者の方に対して落ち着いて丁寧に対応する姿勢の大切さを学びました。

また、蔵書の管理や配架業務においても重要な役割を担っていました。最初はどの本がどこにあるのか覚えるのが大変で、戸惑うことも多かったのですが、次第に慣れていきました。この経験を通じて身につけた配架スキルは、後に私が後輩に教える際にも非常に役立ちました。

さらに、話題の図書を紹介するPOPの作成や、専攻科生がおすすめする本を集めたコーナーの設置にも携わる機会がありました。本の選定やPOPのデザインを工夫し、利用者が興味を持って手に取ってもらえるよう展示を完成させることができました。図書館の仕事が単に本の管理をするだけでなく、知識や情報を広める役割を果たしていることを実感しました。

図書館でのアルバイトで強く感じたものは、職場の温かさです。不安に感じたときには、いつも職員の方々が優しく励ましてくださいました。また、時には学校生活や将来の進路に関する相談に乗っていただくこともあり、私の精神的な支えとなっていました。このような温かい環境で、多岐にわたる業務を経験できたことに深く感謝しています。

楽しく本を読む方法

電子情報通信工学専攻2年
三井 優弥

あなたは普段どのくらいの本を読みますか？読書が自身の習慣として定着している方もいれば、読書が苦手、あるいは本を読む時間が取れないという方もいると思います。

本の種類として思いつくものとして、小説やエッセイ本、漫画やライトノベルなどが挙げられます。高専生の皆さまには、課題や研究、進学・就職のために参考書や専門書にお世話になった方も多いのではないのでしょうか。これらの本だけでも、読み終わるまでの時間や内容を読み解く難易度、著者ごとの表現等の違いによって様々です。この中から本を選ぶときに重要なのは、選んだ本を自身が楽しめているか、役に立っているかという点です。無理に長文や難解な本を選んで、読書を楽しめず、内容が理解できなければ読書は長続きしません。自身が純粋に興味を持って読んでみたいと感じた本を手にとって読

んでみてください。読んでいて楽しいと、ためになると思った本ほど没頭でき、本を好きになるきっかけになります。

また、視点を変えることによる本の楽しみ方もあります。例えば、同じ著者や内容の本の読み比べや、同じ本を複数回読むことで、新たな気づきが得られることがあります。また一例として、近年では漫画や小説を原作とするアニメやドラマが増えていますが、これをきっかけに原作も読むことでアニメやドラマでは表現されない人物の心情や物語の詳細などが分かり、更に作品を好きになることに繋がります。

このように本に触れて好きになるきっかけとして、私は香川高専の図書館を利用することほど最適な手段はないと考えます。図書館には広い世代に亘る様々なジャンルの本が豊富に保管されており、定期的に新しい本の入荷や、教員や図書委員によるおすすめの紹介もあります。このような機会に普段読まないジャンルの本を探したり、書架の本を何気なく眺めて気になった本を読んだりする中で、皆さんに読書が好きになってほしいと願っています。

ブックハンティング紹介

●高松キャンパス

高松キャンパス図書館では、宮脇書店総本店（朝日新町）で、恒例のブックハンティングを令和6年6月27日（木）、11月7日（木）の2回実施しました。

参加学生は、クラス毎のグループに分かれて選書を行い、理学、工学、技術、プログラミング、語学、進学、資格取得、ビジネス、文学、歴史、趣味、料理など、様々な分野で思わぬ本との出会いがありました。

選ばれた本は図書館のブックハンティングコーナーに展示しています。

皆様ぜひとも図書館にお越しください。きっと新しい発見があります。



※こんな本が選ばれました。

6月27日（全76冊）

- ・アジャイル時代のオブジェクト指向のつくり方 Rubyで学ぶ究極の基礎講座
- ・遺伝と平等：人生の成り行きは変えられる
- ・撫物語
- ・古代ローマ解剖図鑑
- ・ミュシャ：パリの華、スラヴの魂

- ・オブジェクト設計スタイルガイド
- ・オブジェクト指向UIデザイン
- ・鳥人王
- ・Stable Diffusion AI画像生成ガイドブック
- ・運動・からだ図解 循環器のしくみ
- ・賢い人のとにかく伝わる説明100式
- ・めんどくさがるの自分を予定通りに動かす科学的な方法

11月7日（全98冊）

- ・南海トラフ巨大地震1, 2
- ・口に関するアンケート
- ・東京のワクワクする大学博物館めぐり
- ・戦争は女の顔をしていない
- ・「物理数学」と「プログラム」でわかる「音」の解析
- ・読めない人が「読む」世界：読むことの多様性

- ・短物語
- ・鉄則！測量士補過去問アタック（2025年版）
- ・一生役立つ きちんとわかる栄養学
- ・神のごときミケランジェロ
- ・飛行機写真の実践撮影マニュアル
- ・幻想仮面の作り方 妖しく美しい異形の仮面コレクション
- ・グリフィス電磁気学Ⅱ

●詫間キャンパス

詫間キャンパス図書館では11月4日（月・振替休日）に宮脇書店（高松市丸亀町）でブックハンティングを実施しました。1年生から5年生までの8名が参加しました。

今回は、専門書・小説・ベストセラー本等の多くの分野に目を向けてブックハンティングをしてもらいました。各人予算と時間を一生懸命使って、34冊の本を選びました。

34冊の本は図書館で受け入れしているので、ぜひ図書館に来て手にとって見てください。タイトルを眺めるだけでも楽しいと思います。



※こんな本が選ばれました。

- ・新・解きながら学ぶC言語第2版
- ・マンガでわかる 図解 眠れなくなるほど面白い確率の話

- ・新しい人間関係のルール
- ・新装版 ぼくは戦争大好きいやなせなかしの平和への思い
- ・数学を使わない数学の講義

ビブリアバトル紹介

高松キャンパスでは、「第6回ビブリアバトル」を開催致しました。

当日は、発表者が1人5分間の持ち時間でおすすめ本を紹介し、その後、参加者全員によるディスカッションを行い、和やかな雰囲気の中、紹介本についての魅力を語り合いました。すべての発表終了後、参加者全員による投票の結果、「チャンプ本」を決定しました。

<第6回> テーマ「趣味の世界」

日 時：令和6年12月12日（木） 参加者：学生・教職員 21名

<発表者と紹介本>

- ・機械工学科4年 永原 蒼大さん
「フィギュアの教科書 原型入門編 / レジンキット & 塗装入門編」
模型の王国（著）、新紀元社、2013年 / 藤田茂敏（著）、新紀元社、2016年
- ・機械工学科5年 福岡 忠之さん
第6代チャンプ本 「23時のおつまみ研究所」
小田真規子（著）、絵・マンガ スケラッコ、ポプラ社、2023年

- ・建設環境工学科4年 秋澤 弘大さん
「ギター・マガジン」俺とギターとライブハウス
ギター・マガジン編集部（著）、リットーミュージック、2020年6月
- ・特別参加 機械工学科教員 木村 祐人さん
「ケルズの書」
バーナードミーハン（著）、鶴岡真弓（訳）、創元社、2022年



図書館からのお知らせ

1. 両キャンパス間の相互貸出をおこなっています。読みたい本が図書館にない時等は気軽にカウンターへ声をかけてください。
2. 本、CD、DVDの購入リクエスト、貸出中の資料の貸出予約も常時受け付けています。

3. 蔵書検索はこちら

読み取れない場合は、
<https://libopac-c.kosen-k.go.jp/webopac41/cattab.do> にアクセスするか、

高専ホームページ

メニュー「施設案内」→「図書館」→「蔵書検索」をクリックしてください。



図書館閲覧室の開館時間

平日 8:30～20:00
（長期休業中は17:00まで）

土曜日 10:00～16:30
（長期休業中以外）

※詳細は図書館（開館）カレンダーをご確認ください。

※自然災害等により臨時閉館する場合があります。

一般利用者（保護者）の皆様へ

本校の図書館は、一般の方へも開放しており、貸出（予約）も可能です。理工系図書が中心ですが、香川県郷土資料や教養・実用・娯楽の図書、雑誌も多数取り揃えていますので、是非ご利用ください。

なお、学校行事等で開館日が変更することがありますので、来館される場合は、香川高等専門学校ホームページ（メニュー「施設案内」→「図書館」）に掲載している図書館カレンダー及び図書館利用案内を確認してからお越しください。